

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- がんばる愛媛の畜産
令和元年度愛媛県総合畜産共進会
(肉用種種牛、肉牛・肉豚の部)の結果
- 令和元年度の畜産関係表彰
- 第 45 回海外家畜悪性伝染病防疫演習
(高病原性鳥インフルエンザ)を開催
- 忘れないで! 『定期報告書』
- 豚熱(旧豚コレラ)等の水際対策について

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況(令和元年8月~11月) ※中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽数	発生場所	発生月	戸数	頭羽数
牛	ヨーネ病	島根県	9	1	1				

○届出伝染病発生状況(令和元年8月~11月) ※中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛ウイルス性下痢・粘膜炎	鳥取県	9	1	1	岡山県	8~9, 11	3	3
		島根県	11	1	1	香川県	8~9, 11	5	6
	牛白血病	鳥取県	9, 11	3	12	徳島県	8~9, 11	3	8
		島根県	8~11	5	11	香川県	8~11	7	9
		岡山県	8~11	10	17	高知県	8~9	2	2
		広島県	8~11	9	18	愛媛県	8~9, 11	4	4
	破傷風	山口県	8~9, 11	7	7				
		鳥取県	8	1	1	岡山県	10	1	1
		島根県	8~9	2	2	山口県	9	1	1
サルモネラ症	岡山県	9, 11	3	4					
ネオスポラ症	徳島県	8	1	1					
豚	豚丹毒	鳥取県	8~10	3	5	香川県	8~11	8	16
		島根県	8, 10~11	3	7	高知県	8~9, 11	3	8
		広島県	8~11	4	17	愛媛県	10	1	1
		徳島県	9, 11	2	2				
鶏	鶏痘	岡山県	8	1	2				
	マレック病	徳島県	8, 10	2	5				
	伝染性気管支炎	愛媛県	8, 11	2	14				
	ロイコチゾン病	徳島県	11	1	3	香川県	9~10	2	8
犬	レプトスピラ症	高知県	11	1	3				

蜜蜂	アカリングニ症	鳥取県	10	1	1	広島県	8	1	1
		島根県	8, 10~11	3	4	山口県	9	1	3
		岡山県	11	2	2				

県内の家畜疾病発生状況

(令和元年 8 月未掲載分~12 月)

【牛白血病】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	11 月	乳用牛	53	1	1	眼球突出、起立不能、体表リンパ節の腫脹、削瘦、元気消失、食欲低下、活力低下、骨盤腔内のリンパ節腫脹
	12 月	乳用牛	125	1	1	
南予	9 月	乳用牛	128	1	1	

【対策】 ○農場内の定期検査と抗体陽性牛の早期更新 ○吸血昆虫対策
 ○牛舎周辺の除草と消毒の徹底 ○凍結や加温処理を行った初乳の給与
 ○家畜保健衛生所等と連携した衛生対策

【牛パスツレラ（マンヘミア）症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	10 月	肉用牛	1~2	1	3	呼吸器症状（肺音粗雑、発咳）、食欲低下、脱水、元気消失、第一胃鼓張、死亡
	12 月	乳用牛	0	1	1	
南予	9 月	肉用牛	2	1	1	
	11 月	肉用牛	1	1	1	
	12 月	肉用牛	2	1	1	

【対策】 ○早期発見・早期治療 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与
 ○群飼後の個体観察

【参考事項】 ○ウイルス、マイコプラズマ、細菌と混合感染し重篤化することがあります。

【牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	11 月	乳用牛	55	1	1	血様便、急死
	12 月	肉用牛	21	1	1	

【対策】 ○畜舎清掃、消毒の徹底 ○整腸剤の投与 ○ストレスの低減

【牛マイコプラズマ肺炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	11 月	肉用牛	14	1	1	発熱、元気消失、食欲不振、呼吸器症状（肺音粗雑、発咳）、耳垂れ、脱水
南予	12 月	肉用牛	2	1	1	

【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○異常牛の早期隔離

【大脳皮質壊死症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	10月	肉用牛	3	1	1	下痢、起立不能、後弓反張、死亡

【対策】 ○飼養管理の徹底 ○ビタミンB1の投与

【豚サルモネラ症 (ST)】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	12月	豚	150	1	1	水様性下痢

【対策】 ○有効薬剤の投与

【豚レンサ球菌症】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	8月	豚	30～50、 140～160	2	9	神経症状、死亡

【対策】 ○有効薬剤の投与 ○ストレス低減

【浮腫病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	9月	豚	30	1	1	死亡

【対策】 ○有効薬剤の投与

【豚大腸菌症】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	10月	豚	38	1	1	元気消失

【対策】 ○有効薬剤の投与 ○ストレス低減

【豚回虫症】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	10月	豚	120	1	3	発育不良

【対策】 ○駆虫薬の投与 ○豚房の清掃及び消毒の徹底

【伝染性気管支炎】 【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	羽数	主な症状
東予	8月	採卵鶏	27、28	1	10	死亡羽数の増加、沈鬱・うずくまり
	11月	採卵鶏	29	1	4	

【対策】 ○異常鶏の早期発見 ○オールアウト後の鶏舎消毒の徹底
○農場に適合したワクチンの使用

【鶏大腸菌症】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	羽数	主な症状
南予	9月	肉用鶏	27	1	2	死亡羽数の増加
	10月	肉用鶏	12	1	10	

【対策】 ○飼養衛生管理の徹底

がんばる愛媛の畜産

令和元年度愛媛県総合畜産共進会(肉用種種牛、肉牛・肉豚の部)の結果

【肉用種種牛の部】

令和元年 11 月 12 日に西予市の野村町畜産総合振興センターで、「令和元年度愛媛県総合畜産共進会(肉用種種牛の部)」が開催され、雌子牛の部、未經産牛 1 区の部、未經産牛 2 区の部、経産牛の部の 4 部門に分かれ序列を競いました。審査の結果、各部門で以下の出品牛が優等賞首席を受賞するとともに、農林水産大臣賞等が授与されました。

(敬称略)

部門	名号	出品者	表彰
雌子牛	ゆいなひめ 10	池田 一成 (愛南町)	中国四国農政局長賞
未經産牛 1 区	ふくはくほう	角藤 幸男 (西予市)	
未經産牛 2 区	すまいる	池田 一成 (愛南町)	農林水産大臣賞
経産牛	ももね	井上 明宏 (西予市)	生産局長賞

【肉牛・肉豚の部】

令和元年 12 月 7 日に大洲市の JA えひめアイパックス株式会社で「令和元年度愛媛県総合畜産共進会(肉牛・肉豚の部)」が開催され、序列を競いました。審査の結果、以下の出品者が優等賞首席を受賞するとともに、農林水産大臣賞等が授与されました。

(敬称略)

種別	出品者	表彰
肉牛	堀内 博 (西予市)	農林水産大臣賞
肉豚	(有)菊間仙高牧場 (今治市)	農林水産大臣賞
交雑種・乳用種	堀内 博 (西予市)	生産局長賞

令和元年度の畜産関係表彰

(敬称略、県及び地方共進会を除く)

○家畜人工授精師知事表彰 (表彰日：令和元年 7 月 23 日)

氏名	住所地
東 春人	北宇和郡鬼北町

○畜産功労者知事表彰 (表彰日：令和元年 12 月 7 日)

氏名	畜種	住所地
本宮 環	肉用牛経営	今治市
山本 英司	酪農経営	大洲市
松本 和夫	肉用牛経営	西予市

第 45 回海外家畜悪性伝染病防疫演習 (高病原性鳥インフルエンザ)を開催

本県では、豚熱（旧豚コレラ）、高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫などの家畜伝染病の発生に備え、関係者の危機管理意識の向上等を目的とした防疫演習を毎年開催しており、今年度は、高病原性鳥インフルエンザの発生を想定し、家きんの捕鳥・殺処分と畜産関係車両消毒のための消毒ポイントの運営を中心に演習を実施しました。

昨年 11 月 11 日、西予市宇和運動公園を演習場として、県や市町の関係部局、陸上自衛隊松山駐屯地、畜産団体の関係者ら約 160 名が参加しました。今年度は、愛媛県ペストコントロール協会、（一社）日本産業・医療ガス協会四国地域本部愛媛県支部も参加し、関係機関や関係団体との連携の強化に努めました。

家きんの捕鳥・殺処分については、（一社）日本産業・医療ガス協会四国地域本部愛媛県支部から、殺処分に使用する二酸化炭素ガスの取扱いを学びました。県職員と自衛官が、集合施設及び仮設テントでの防疫服の着脱、模擬鶏舎での生きた採卵鶏を捕獲する方法と、模擬鶏の入った容器に二酸化炭素ガスを注入する殺処分の手順を確認しました。

消毒ポイントでの作業については、実際に施設を設営し、県職員と愛媛県ペストコントロール協会会員が、車両消毒に係る一連の手順を確認しました。特に県職員については、東予、中予、南予地方局の担当者が参加し、作業内容を共有しました。

また、家畜伝染病が発生した際、病原体の散逸を防ぎ死亡家畜を安全に輸送できる防疫バッグ等の資材の展示も行いました。



模擬鶏舎での捕鳥作業



消毒ポイントの設置



車両消毒作業



防疫バッグの展示

【家きん飼養者・関係者の皆様へ】

昨年、国内の家きんにおける鳥インフルエンザの発生はありませんでしたが、昨年 11 月に西条市の加茂川河口において、野鳥の糞から低病原性鳥インフルエンザが検出されました。すでに県内にウイルスが持ち込まれていますので、本病の侵入防止に万全を期していただきますようお願いいたします。

忘れないで！『定期報告書』

家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図るため、家畜・家きんの飼養者は飼養頭羽数や衛生管理の状況等について、毎年、家畜保健衛生所に報告しなければなりません（家畜伝染病予防法第 12 条の 4）。今年も忘れずに提出をお願いします。

畜産農家以外にも、愛玩用や庭先養鶏、学校、幼稚園、保育園、公園、動物園等で飼育している場合にも報告が必要です。

【報告が必要な家畜・家きんの種類と報告期限・報告の基準日】

	家畜・家きんの種類	報告期限	報告の基準日
家畜	牛、水牛、馬、鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし	<u>令和 2 年 4 月 15 日</u>	<u>令和 2 年 2 月 1 日</u>
家きん	鶏、うずら、あひる（アイガモ含）、きじ、ほろほろ鳥、七面鳥、だちょう	<u>令和 2 年 6 月 15 日</u>	<u>時点</u> での飼養状況

【提出物】

- 1 定期報告書（所有者、農場の管理者、農場の基本情報等）
- 2 飼養衛生管理基準の遵守状況
- 3 添付書類一式（衛生管理区域、消毒設備、埋却用地の確保状況等）

※飼養頭羽数に応じて提出書類が異なりますので、家畜保健衛生所にご相談ください。

豚熱(旧豚コレラ)等の水際対策について

国内での豚熱や東アジア諸国におけるアフリカ豚熱（旧アフリカ豚コレラ）の感染が拡大しており、海外からの旅行客が急増する春節の時期に併せ、令和 2 年 1 月 28 日、松山空港において、水際対策強化のための動物検疫キャンペーンを実施しました。キャンペーンでは、農林水産省動物検疫所と連携して、利用客に靴底消毒の協力と輸入検査を受けていない畜産物の持ち込み禁止を呼びかけました。松山空港では、国内線・国際線の到着ロビーに靴底消毒マットを常設しており、今後もこのような活動を通じ、家畜伝染病の侵入防止に取り組みます。



“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 941-2111 Fax (089) 941-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

東予家畜保健衛生所今治支所

Tel (0898) 22-0430 Fax (0898) 22-0438

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 22-0328 Fax (0894) 22-0343

南予家畜保健衛生所宇和島支所

Tel (0895) 22-1294 Fax (0895) 22-9316

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093

畜産協会 BSE 検査死亡牛受付専用

携帯 Tel 080-3166-7222